

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 履修登録科目数の上限設定によって履修者数を適正化する	→開講科目数と履修者数	B	B			
2. 教務主任等による学習指導や学生主任等による生活状況の把握によって成績不振者等の就学意欲を向上する	→「成績に関する面談」の対象となった当該学生の単位取得状況や進級・卒業状況	B	C			
3. 「人文学の幅広い教養」を提供するためにシラバスの情報提供方法を多元化する	→ネットシラバスの閲覧およびダウンロード可能箇所数とそれぞれのアクセス数	D	D			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 2010年度春学期における最多履修者数の授業は異文化理解の510名、秋学期は舞台文化論の826名であった。その他、入門、概論、概説科目などで300名を超える科目が多く見られた。2010年度からは総合A、Bで履修者制限を行った。総合Bは制限人数を下回ったが、総合Aは200名で履修を制限した。成績不振学生との面談については2010年度は種々の事情から一部の学生を除いて実施することが出来なかった。
小項目 6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) シラバスに基づいて授業を実施しているが、シラバスの多元化には着手していない。なお、2011年4月1日から4月30日の全学ネットシラバス検索数は11,284回であった。文学部だけに限定されたデータについては現時点では整備されていない。
★ 小項目 6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 成績評価及び単位認定は適切に行われている。例を挙げると1年生の必修科目であるキリスト教学(秋学期)は、履修登録者409名、そのうち合格者は370名(合格率90.5%)で、平均点は75.5点(合格者平均点は80.6点)、同じく必修科目の人文演習Ⅱ(秋学期)は、履修者783名、そのうち合格者は762名(合格率97.3%)で、平均点は78.5点(合格者平均は80.4点)であった。
小項目 6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) <u>いずれかにチェックしてください。</u> →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない (説明) GPAが年々下降傾向にあるなどの情報は多くの教員が共有しているが、学部全体としての現状確認や原因の検証を行ってはいない。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
- GPA値(全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業(授業公開)の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

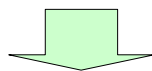
★ 追加データがあれば追加してください。

◎ 効果が上がっている事項 ※ 目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 6.3.1	
小項目 6.3.2	
★ 小項目 6.3.3	
小項目 6.3.4	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 6.3.1	
小項目 6.3.2	
★ 小項目 6.3.3	
小項目 6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目6.3.1	成績不振者に対する面談の実施、および面談実施後の出席状況と成績の確認。	
小項目6.3.2	シラバスの提供方法およびシラバスの利用状況を確認するための妥当性のあるデータの不足。	
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4	G P A 情報などの全教員での共有、及びそれに対する原因検証。	
その他		

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目6.3.1	成績不振者に対する面談の実施を再開する。また面談実施後の出席状況と成績を定期的に確認する。	
小項目6.3.2	シラバスの提供方法の再検討（紙媒体の一部復活やpdf化）、シラバスの利用状況を確認するための妥当性のあるデータの検討を教務委員会に働きかける。	
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4	教授会などを通じてG P A 情報などを全教員で共有する。またそれに対する原因検証の場をもうける。	
その他		

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

## &lt;評価専門委員会の評価&gt;

- 【学外委員】  
○進捗評価で昨年より後退した項目があるのは残念ですが、問題点は「改善すべき事項」として認識されていますので、今後の適切な対応が望まれます。
- 【学内委員】  
○成績不振者への対応が行われようとしていることは評価できます。成果の上がることが期待されます。ただ、成績不振者をどのようにすることを目指しているのかということが不明です。また、各学科目の合格率と平均点で成績評価単位認定の適切性を測ることは可能でしょうか。  
○成績不振者への対応は評価できます。シラバスの紙媒体での配布の検討も評価できます。G P A 情報などを全教員で共有・検証についても評価できます。  
○小項目6.3.1においては、目標の説明だけでなく、要素などを参考に教育方法や学習指導について説明が求められます。履修単位数制限についてもここで触れておいてください。  
○シラバスの内容について記述する必要があるでしょう。  
○シラバスと授業内容の整合性は、授業評価アンケートなどを利用することが考えられます。  
○成績の評価方法・評価基準を明示しているかどうかについて記述する必要があります。
- 昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。  
・履修者数の適正化のための試みが行われていることは評価できます。ただ、文学部は他学部と比べて開講科目数が多いと思われませんが、なにゆえに特定の科目の履修者が異常に多くなるかということの原因の解明は必要です。また、教務主任や学生主任等によるきめ細かい指導は今の学生にとっては重要であると思われれます。引き続き努力がなされることが期待されます。  
・また成績不振者に対するケアも評価できます。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

## ○小項目6.3.2&amp;6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

## ○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」  
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

## ○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

## IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○6.3.1 追加記述 現在17の科目で履修者数制限を行っている他、演習科目等でも少人数のきめ細かい指導ができるようになっている。また1学期に履修登録できる単位数に上限を定め、十分な自学習時間が確保できるように配慮している。シラバスには講義目的、講義内容、授業方法に加えて具体的な成績評価方法・基準や準備学習等の情報も提供され、学生が履修前に科目についての十分な情報を得られる状態になっている。

★ ○成績不振者への面談 成績不振者の中には学生生活に問題を抱え講義に出席できていない、もしくは大学に来ることが出来ていない者も多い。学業面以外でのサポートも、支援センターとの連携を強化することで計りたい。